

OVER TOURISM

～ オーバーツーリズムとその対策
について考える ～



優秀賞



令和6年度 板橋区

「図書館を使った
調べる学習コンクール」

中学生の部

その旅行先、オーバーツーリズムは大丈夫？

目次

はじめに ~調べたいと思ったわけ~
はじめに ~7つの疑問~

P. 1
P. 2

疑問1 オーバーツーリズムとは？
疑問2 オーバーツーリズムによる影響とは？
疑問3 日本は今、どのような状況？
疑問4 世界は今、どのような状況？
共通点と相違点をまとめよう！
疑問5 実際に行われている取り組みは？
疑問6 私たちにできることとは？
疑問7 オーバーツーリズムとどう向き合う？

P. 3
P. 4 ~ 5
P. 6 ~ 7
P. 8 ~ 10
P. 11
P. 12 ~ 15
P. 16 ~ 17
P. 18 ~ 20

その後 ~わたしとAさんは~
最後に ~感想・意見~
7つの疑問の答え

P. 21
P. 22
P. 23

参考・引用文献

P. 24



はじめに ～ 調べたいと思ったわけ～

最近 ニュースで「オーバーツーリズム」の話題が取り上げられていることは知っているでしょうか。現在日本でも深刻になっている社会問題で、様々な観光地で影響が出てきています。

日本の修学旅行の定番とされる京都は、日本人にも外国人観光客にも人気のスポットです。ところが、この「オーバーツーリズム」により修学旅行にも影響が及んでいます。例えば、「貸し切りバスが貸りられない」「予定通りに進まず、計画を変更せざるを得ない」などが挙げられます。

私も2年後には修学旅行で京都と奈良に行くことになると思いますが、その時に「オーバーツーリズム」による悪影響を受けてしまい、修学旅行の目的である「学生の思い出作り」や「班活動による主体的な学び」などが達成できなくなる状況になったらとても困るし、残念です。

そこで私は、この「オーバーツーリズム」に興味を持ち、調べてみることにしました。調べる前に、まず7つの疑問をまとめてから、その答えを1つ1つ探っていこうと思います。



はじめに ～7つの疑問～



～7つの疑問～

1. そもそもオーバーツーリズムとは? 定義を知りたい!
2. オーバーツーリズムによる影響とは、具体的にどのようなものだろう?
3. 日本は今、どのような状況なのだろう?
4. 世界は今、どのような状況なのだろう?
5. 実際に行われている取り組みはどのようなものだろう?
6. 私たちにできることはあるのだろうか?
7. オーバーツーリズムという問題にどう向き合っていけば良いのだろうか?

この疑問にそって、1つずつ調べていきます。それでは見ていきましょう!

疑問① オーバーツーリズムとは？

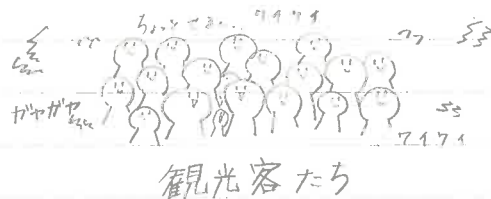
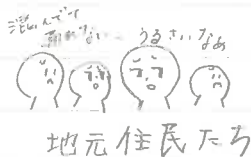
簡潔に説明すると、

オーバーツーリズムとは、「環境容量」を超えて観光客などが自然や景観、伝統的建築物などの観光資源を過剰に利用することです。

この「環境容量」という言葉を使われても分からない、という人もいます。これはある観光地において、自然環境、経済、社会文化にダメージを与えることなく、一度に訪問できる観光客数の最大値のことです。

「はじめに」でも挙げたオーバーツーリズムによる悪影響は、いわば“観光客の殺到”が原因だったのです。

オーバーツーリズムは「観光公害」とも呼ばれることから、観光地やその地元住民に相当な影響を及ぼしていることがうかがえます。



オーバーツーリズムによって、観光地やその地元住民は悩んでいるようだね。
ニュースでもよく上のような状況を伝えているよね。
修学旅行以外にも、悪影響を受けているものはあるはずだから、次はその「影響」について調べていくよ！



うんうん！オーバーツーリズムが何なのか、とてもよく分かったよ！
どんな影響を受けているのか…。
気になるなあ…！

疑問② オーバーツーリズムによる影響とは？

日本の観光地といえは...。京都や鎌倉などを想像するのではないかと思います。実はこの2つの観光地もオーバーツーリズムの影響を受けています。一体、何が問題になっているのでしょうか。それは... 騒音トラブル・大量のごみ・混雑・渋滞など、様々なトラブルです。これらはそこに住んでいる地元住民にとって、とても迷惑なものとなってしまう、自治体をも悩ませています。これは自治体や地元住民のダメージとなり、「環境容量」を超えていることとなります。つまりこれこそがオーバーツーリズムによる影響です。

また、世界遺産に指定された小笠原諸島では、島外から持ち込まれた外来動植物が繁殖し、稀少な固有種の生存が危ぶまれています。これも、観光客が外来動物を持ち込んでしまっている、という点で「環境容量」を超える「オーバーツーリズム」となっているのです。

そして、オーバーツーリズムによる影響は大きく5つに分かれます。1つずつ詳しく説明していきます。

1, 観光資源への影響

環境汚染、植生・生態系の変容 または破壊などの影響、もしくは落書き、破損、周辺地域の開発による景観、雰囲気への毀損などの影響です。小笠原諸島はこれに当てはまります。

2, 地域社会への影響

渋滞、混雑、ごみ、騒音、悪臭などの影響です。利便性の低下や評判の毀損、健康被害などに直結します。これに関しては、日本も海外も同じように問題となっており、大きく影響しているといえます。

3, 住民生活への影響

治安の悪化、コミュニティの衰退、日常生活への被害などの影響です。住民より観光客を優先・ターゲットとする店などが増えたり、観光客が撮影した写真に児童が写り込んだままSNSで拡散されたりする、プライバシーの侵害なども起きています。京都市や金沢市はこれに当てはまります。

4, 経済的影響

観光以外の産業の衰退、物価の高騰、経済活動への妨害などの影響です。経済構造が脆弱化するだけでなく、観光客中心に商売を行う店なども増えていってしまいます。スペイン・バルセロナの市場や、オランダ・アムステルダムの小売商店はこれに当てはまります。

5, 伝統・文化への影響

文化、習俗の変容、生活習慣の変容、ホスピタリティ(親切にもてなすこと)の低下などの影響です。住民感情の悪化や排斥行為につながる可能性もあり、負の連鎖になってしまいかもしれません。ミクロネシアなど西太平洋の群島などが当てはまります。



うーん。「オーバーツーリズム」は観光地にも地元住民にも深刻な影響を与えているんだね。5つの影響はよく分かったけど、まだ観光地の具体的な状況はよく分からないね。今、日本や世界はどうなっちゃったのかな？



うん！そのとおりなんだ。影響はある程度世界で共通したものがあっても、それにより、その地域がどのような状況になってしまうかは、地域によって少しずつ違ってくるはず。そこで、もっとくわしく状況を知るために、日本の「京都」と、スペインの「バルセロナ」を取り上げて、比較しながら見ていくよ！



なるほど！確かに影響と状況は違って来るよね。「京都」と「バルセロナ」。どちらも有名なところだけれど、「オーバーツーリズム」が起きてしまっているんだね。くわしく教えて！

疑問③ 日本は今、どのような状況？

ここでは、日本の中でも、“京都”を例に見ていきます。

京都は、1200年以上の歴史を持つ古都であり、日本を代表する文化、産業、観光の拠点都市として発展してきました。昔ながらの街並みや自然景観といった多くの魅力があり、中高生の修学旅行の定番です。また、世界遺産にも登録されています。

そんな京都は、深刻なオーバーツーリズムの影響を受けています。様々な問題がありますが、その中でも私は、①街なかの混雑、②オーバーホテル問題、③それによる地価の高騰、④マナー違反に注目しました。

① 街なかの混雑

昼間の時間帯にもかかわらず、観光客が集中して、移動すら困難な状況になっています。スムーズに移動できず、観光客の満足度の低下や住民へのダメージなどにつながる恐れがあります。

② オーバーホテル問題

この問題は、あとに説明する③地価の高騰と深く関わっています。観光客が京都に宿泊しない理由として、「予約できなかったから」という声が上がっています。つまりこれは、観光客が多すぎるもしくは宿泊施設が不足している、ということがいえます。これを解決するべく急増したのが民泊と簡易宿所です。民泊は、旅館業法の営業許可が必要にもかかわらず、無許可、あるいは騒音などの迷惑行為、無責任な民泊事業者による運営で地域住民の不安が高まっています。簡易宿所は、客室数が多いですが、交流機能を備えているわけではありません。地域との接点を持ちづらく、ターゲットとするのは観光客という状況ではとても続けていけるとは考えづらいです。実際にこれらの施設は創業わずか3年未満で廃業するケースが増加してきています。

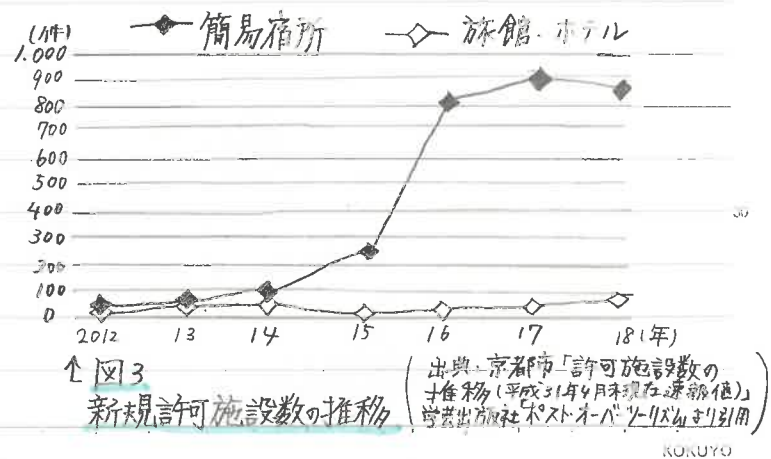
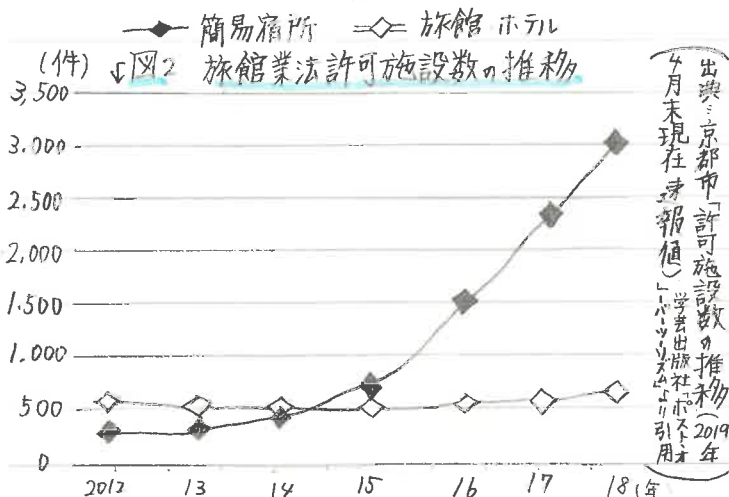
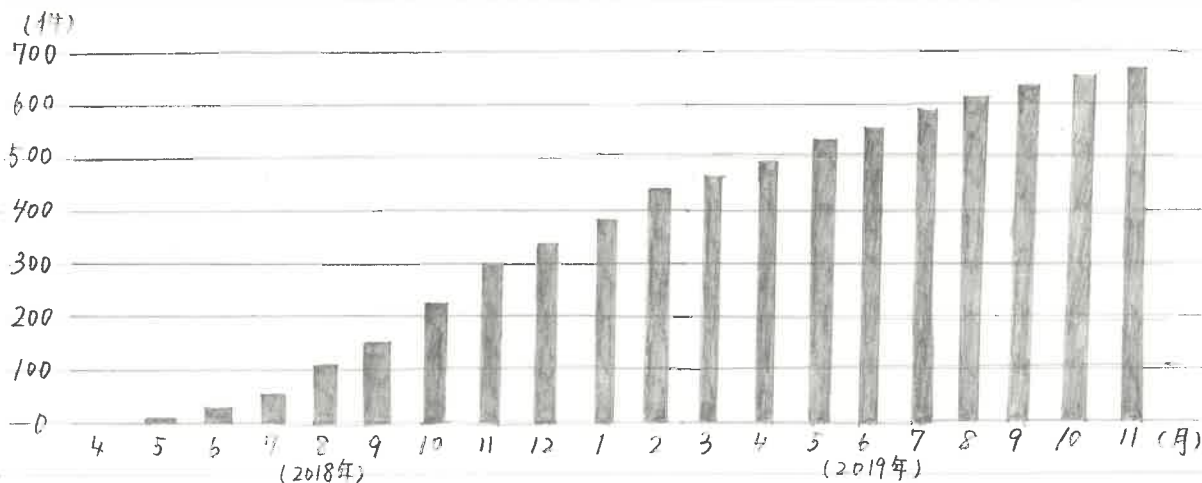
※図1, 2, 3(p.7)参照

③ 地価の高騰

宿泊施設が客に対して過剰供給をすることにより引き起こされています。②で説明した簡易宿所は、旅館・ホテルのように地価の相対的に高いエリアに必ずしも立地していません。地価の相対的に低いエリアへの投機的な簡易宿所の立地は、さらなる地価の高騰を引き起こす可能性があります。

④ マナー違反

路上でのポイ捨て、深夜に大声で会話、看板への落書き、無許可での一般住居の立ち入り・写真撮影など、様々な問題が各所で観察されています。花街では、芸舞妓に殺到して、写真を撮るだけでなく、髪や着物を掴む、袂に吸い殻を投げ込む、お座敷への往来につきまとうなどの問題行動が見られます。活動に支障が生じているとして、市に改善を要望するまでになっており、とても深刻な状況といえます。



疑問④ 世界は今、どのような状況？

ここでは、スペインの“バルセロナ”を例に見ていきます。

バルセロナは、世界遺産に登録されているアントニ・ガウディや、陽光と開放感あふれるビーチ、独自の多彩な食文化、世界的なサッカーチームの拠点など、様々な魅力があります。

そんなバルセロナも、深刻なオーバーツーリズムの影響を受けています。受けている影響は同じでも、それによりどのような状況になっているのかは、京都と違ってくるはずです。そこで、バルセロナも京都と同じ観点で見えていきます。

① 街なかの混雑

市場では、あまりの混雑に地元民の足が遠のく一方、観光客は見物だけで買い物をしないため、廃業する店も出るようになってしまいました。また、サグラダ・ファミリア、グエル公園、ランブラス通り、グラシア通りでも、公共空間の混雑や騒音などに悩まされています。

② オーバーホテル問題

観光客の増加は、宿泊施設の増加と並走しています。ですが、最近では観光客数の増加率よりも宿泊施設数の増加率の方が高く、供給過多の傾向にあります。また違法民泊（無許可での運営など）の存在も問題になっています。

※図4(p.9) 参照

③ 地価の高騰

市内の平均家賃と住宅購入価格の平均はかなり上昇しています。本来ならば住宅として提供されるべき不動産を容易に宿泊施設に転用する、ということも起きており、その結果都心部では、決して空き家が多いわけではないのに、人口を減らす地区も出てきています。つまり、観光活動志向の市場原理が地区の空洞化を招いているのです。また、②の供給過多の傾向にある状況も影響していると思われます。

※図5(p.9)、図6(p.10) 参照

④ マナー違反

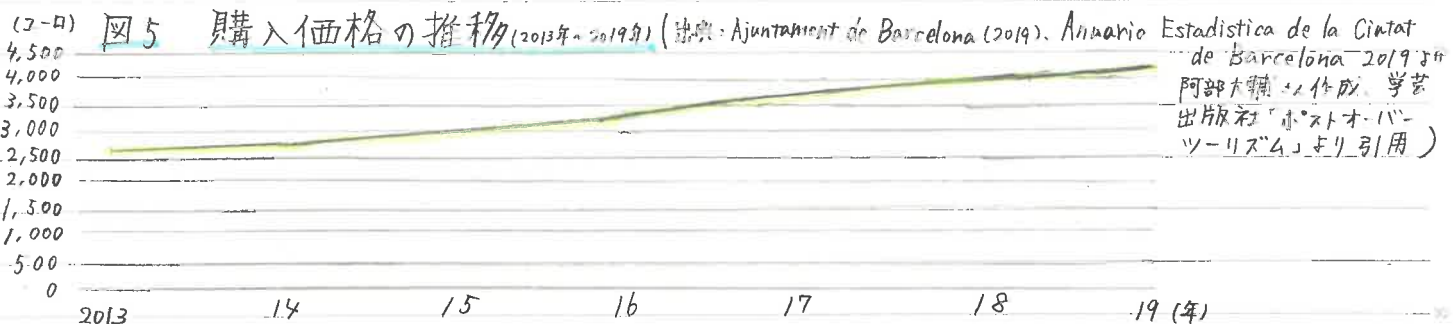
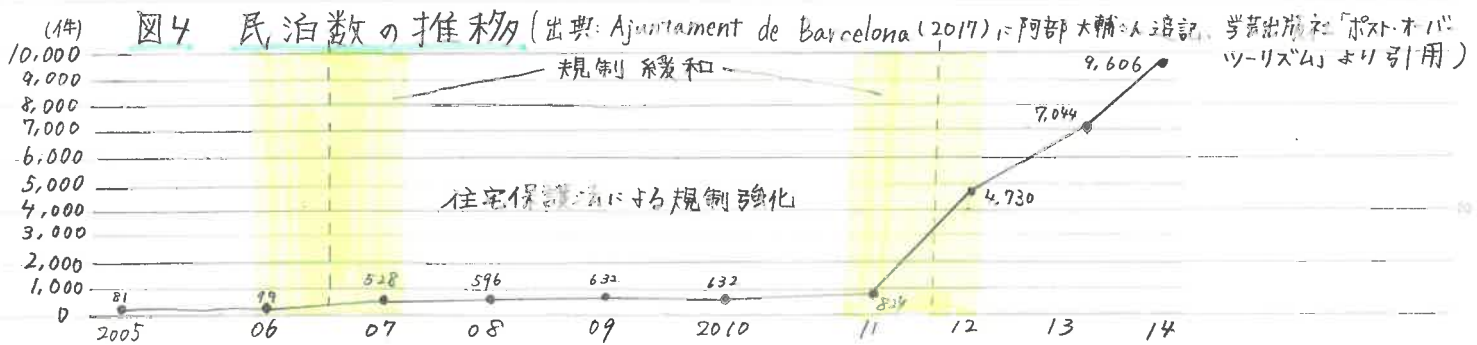
バルセロナのマナー違反は、水着姿で旧市街を訪れて買い物をする、早朝から酒を飲み、スーパーに舌を入れる など、日本よりも過激なものが多いです。

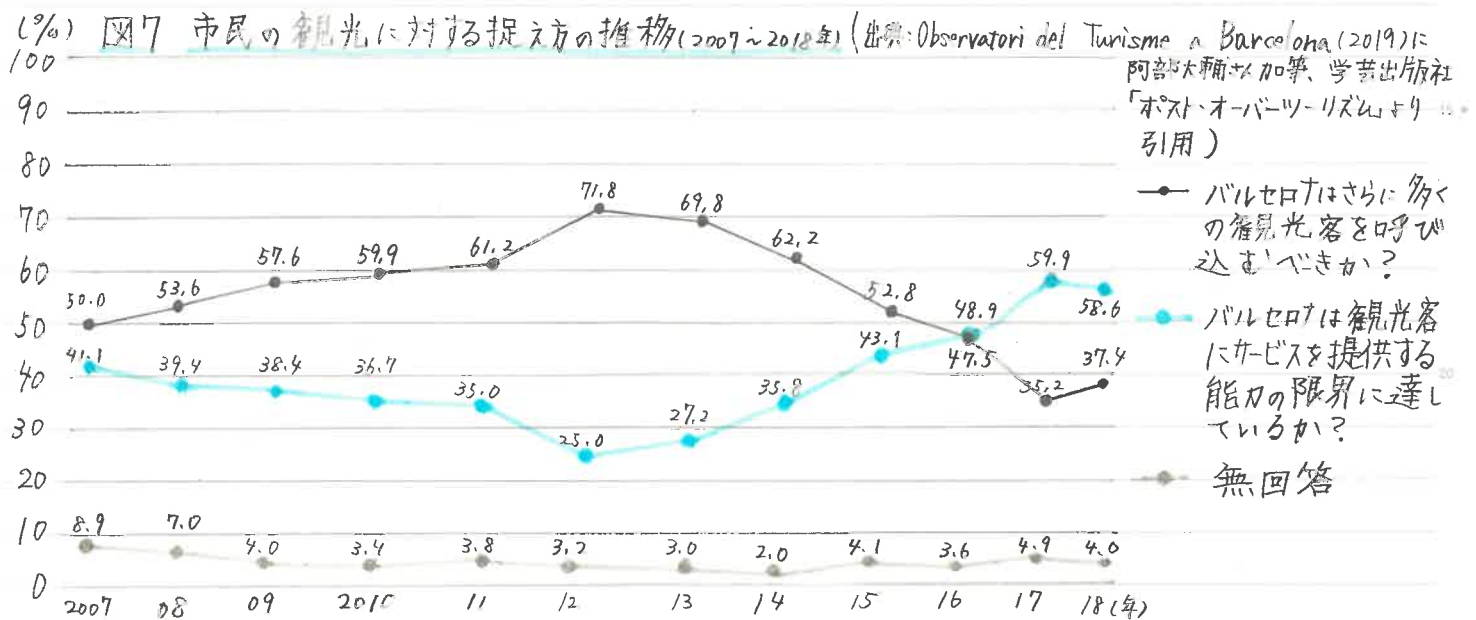
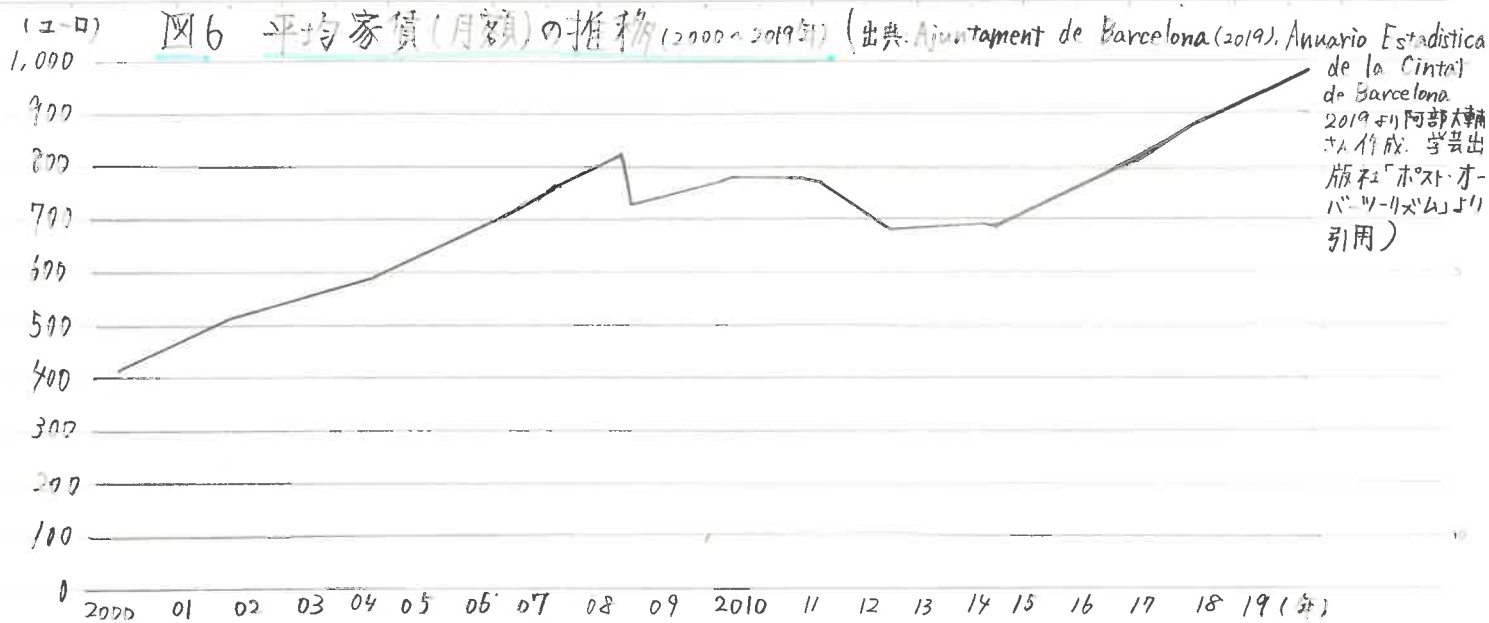
ここで、もう一つ重要な問題があることが分かりました。それは、「住民の観光に対する感情の悪化」です。

⑤ 住民の観光に対する感情の悪化

この観光客のマナー違反がきっかけで、市民の反応は次第に過激化しました。観光バスに卵を投げつけ、タイヤを切り裂く集団が現れたり、「観光客がわたしたちの街を殺す」「観光客は帰れ!」という過激なメッセージがバルコニーに掲げられたり、落書きされたりと、デモも行われるようになってきました。かつて観光による都市再生のモデルと称されたバルセロナ市を、一転して観光への忌避感 が覆うようになってしまいました。

※図7(p.10)参照





京都とバルセロナでは、同じことと、違うことの両方が起きていると分かったね。ここで、それぞれの共通点と相違点をまとめるよ。

共通点と相違点をまとめよう！

＜京都とバルセロナの共通点＞

- ・どちらも同じような問題が起きている
- ・観光客への供給過多の傾向にある
- ・違法民泊が存在する
- ・観光客が起す問題が住民にとって迷惑なものとなっている
- ・住民の生活を防いでしまっている

＜京都とバルセロナの相違点＞

- ・混雑により、京都は満足度の低下や住民へのダサージを問題としているが、バルセロナは騒音や店の廃業を問題にしている
- ・オーバーホテル問題、地価の高騰により、京都は住民への迷惑行為や、宿泊施設（簡易宿所）の早すぎる廃業が問題になっているが、バルセロナは地区の空洞化などが問題になっている
- ・どちらも悪質なマナー違反がされているが、バルセロナの方が住民がデモを起こすことにつながっており、過激な部分が多い
- ・京都も、住民たちの感情は悪化しつつあるが、バルセロナは観光への忌避感が覆うようになってしまった



共通点と相違点をまとめたことにより、どんな取り組みをこれから調べていけばいいのかが分かりやすくなったね！確かに、相違点を見ると、それぞれの地域で問題となっていることが少しずつ違うことが分かるよ！次は取り組み…。少し範囲が広い気がするんだけど…。



そこは大丈夫！今まで見てきた①～⑤の問題にテーマをいぼって、それに対する取り組みを説明していくよ！疑問5も、3、4と同じように、京都とバルセロナ、それぞれの取り組みを一緒に紹介していくよ！
それでは、どうぞ！

疑問⑤ 実際に行われている取り組みは？

ここでは、先程と同様に同じ観点で、京都とバルセロナそれぞれがどのような取り組みをしているのか、を見ていきます。

① 街なかの混雑 → 分散化・誘導 <京都編>

京都では、「観光調査」の日本人向けアンケートを行った結果、特定のエリアに観光客が集中しているということが分かりました。これを踏まえた上で京都市は、混雑対策として、時間・空間・季節の3種類のアプローチで集中の解消に努めています。

・ 時間の分散

早朝や夜間にイベントを開催したり、時間帯限定の特別な展示や優待を行う、という取り組みです。

・ 空間の分散

人出の少ないエリアの魅力を訴求する取り組みが中心となっています。「とっておきの京都 ～定番のその先へ～」プロジェクトに着手し、知る人ぞ知る観光情報を、検索機能や一般からの投稿機能も搭載した専用サイトで公開しています。

・ 季節の分散

桜と紅葉シーズン以外の誘客を強化する取り組みです。

3月前半の「花街道」、5～6月の「青もみじ」、8月の「京の七夕」などのイベントを開催したり、盛夏の川床での食事などを訴求しています。

① 街なかの混雑 → 分散化・誘導 <バルセロナ編>

バルセロナでは、一部の人気スポットに観光客が集中する弊害が起きています。これを解消するため、2015年、バルセロナの県と市、観光局が予算と人材を持ち寄り、分散化を促進する専門組織「バルセロナ観光観測所」を設立しました。バルセロナ観光観測所は、地理学や観光へのアンケートやウェブ上の口コミ等も含めて幅広くデータを収集、分析し、観

光客の分散化に向けた施策を検討しており、地理学や観光学、経済学、数学、IT分野の専門知識を有するスタッフ50名に、外部人材を加えた陣容になっています。検討結果は、母体である行政機関や観光局に提言され、観光商品開発やプロモーションに活かされるほか、民間企業との情報共有も行われています。

② オーバーホテル問題 → 民泊・簡易宿所の取り締まり〈京都編〉

民泊については、2015年にプロジェクトチームを成立させ、2016年には通報窓口を設置し指導要綱を策定するなど、従来、対応に努めてきました。2018年6月、いわゆる「新法民泊」が営業を開始しました。京都市は実態把握と違法営業の取り締まりを強化し、2018年8月には全国で初めて違法物件を摘発しました。この結果、民泊に関する通報・相談件数および違法営業疑いで調査する対象施設数は減少し、一定の成果をあげています。

② オーバーホテル問題 → 観光宿泊施設抑制プラン(PEUAT)〈バルセロナ編〉

PEUATは、市内を大きく4つのゾーンにゾーニングし、ゾーンごとに宿泊施設の整備の条件を定めています。

ゾーン1：一切の宿泊系用途を禁じる

旧市街・拡張地区の一部、グラシア旧市街、ポブレノウ旧市街周辺地区などが含まれています。これらのエリアは古くからの生活が根付く歴史的市街地であり、多くの観光資源が立地しています。また、すでに宿泊施設が集中しているエリアです。

ゾーン2：条件付き認可だが原則的に増設は禁じる

ゾーン1の少し外側のエリアにあたり、宿泊施設の集中が目立ち始めており、かつそれらが今後立地する可能性が高いエリアです。

ゾーン3：宿泊施設が許可される

宿泊施設が相対的に少なく、現在のところオーバーツーリズム

の悪影響はさほど目立っていないエリアです。民泊について、市全体の民泊数に空きが出たときのみ許可されますが、既存の住宅に代替してはなりません。住宅用途との混在も認められていません。

ゾーン4: 再開発と連動して、宿泊施設が許可される

市内で大規模再開発が進行中の3区域です。再開発に応じて一定の宿泊施設の立地が認められます。

③ 地価の高騰 → 宿泊税の導入 <京都編>

2018年10月、観光振興の施策に要する費用に充てるため、国内では東京、大阪に続き、宿泊税が導入されました。1人1泊当たりの宿泊料金が2万円未満であれば200円、2万円以上5万円未満の場合は500円、それ以上であれば1000円を徴収する仕組みです。納税義務者は旅館・ホテル、簡易宿所、民泊も含むすべての宿泊者としていますが、学校の主催する修学旅行その他学校行事に参加している児童・生徒または学生や引率者については免除されます。課税をすることにより、オーバーホテル問題を緩和し、地価の高騰をおさえることにつながると考えられます。

③ 地価の高騰 → 宿泊税の導入 <バルセロナ編>

バルセロナのあるカタルーニャ州では、2012年に宿泊税を導入し、ホテルのランクに応じて最大7泊まで徴収してきました。ただし、8泊以上と16歳以下は免除されます。バルセロナについては、市内の宿泊客を周辺地域に分散させる目的で割高な宿泊税が設定されています。課税をすることにより、オーバーホテル問題が緩和され、それが宿泊施設への不動産の転用つまり地価の高騰の対策になります。課税は様々な問題の対策として有効なのです。

④ マナー違反 → 啓発 <京都編>

2015年7月に、市は世界最大の観光情報サイト「トリップアドバイザー (+tripadvisor.com)」と連携し、舞妓等のグラフィックを使って地元のマナーやルール、タブーを伝えるリーフレット「京都のトリセツ 〜京都のあまへん〜」を作成しました。市はこれを多言語観光サイトに掲載し、交通・旅行事業者にダウンロードの上活用するよう促しました。また、地元の大学と連携したチラシの作成や配布、人気スポットの周辺住民や大学生、留学生がインバウンドにマナーを説明するボランティア活動なども行われています。ですが、これまでの対策をしても、祇園などのマナー違反はエスカレートしており、より効果的な対策の模索が続いています。

④ マナー違反 → 啓発 <バルセロナ編>

市は2017年から「バルセロナをシェアしよう」と名付けられた市民向けのマナー啓発キャンペーンを展開しています。これは、バルセロナに住むあらゆる人が心地よく過ごせるようにするために、お互いに敬意を持ちながら都市を見守ることが責務であることを伝える取り組みです。観光客を対象とした啓発メッセージも含まれており、市民の日常生活への敬意を持つことを訴える「あなたの休日は、わたしたちの日常」というものがあります。また違法民泊の存在を示しつつ、そこに宿泊しないように訴えるキャンペーンもあります。

マナー違反を啓発し、少しずつでもそれを減らしていくことが

⑤ 住民の観光に対する感情の悪化を防ぐことにつながります。



京都とバルセロナの取り組みを比較しながら見るのができたね！

うーん。。でも、わたしたちにできることってあるのかな...？ 考えてみよう！

疑問⑥ 私たちにできることは？



< 私たちにできること >

訪れる観光地の環境や文化を尊重し、持続可能な観光を心がけることができます。例えば、地元のビジネスを支援する、ゴミを適切に処理する、公共の場所での騒音を避けるなどの行動です。

< 考えたこと >

- ・市などが取り組んでいる対策について知り、色々な人と話してみる
→ 自分が調べることで、周りの人にも知ってもらうことができ、対策を考えられるからです。
- ・観光目的で旅行に行くときは混雑をなるべく避けたルートを選択する
→ 混雑が特に問題になっている観光地の混雑時に行くと、さらなる状況悪化になってしまうからです。

< 分かったこと >

1~5の疑問について調べた結果、オーバーツーリズムという問題は、私の予想以上に深刻なものだと分かりました。

市などが一丸となって対策をしても、問題がエスカレートしていきたり、なかなか対応が追いつかなかったりしているため、1人だけの力では、問題解決には至らないと思います。1人だけが行動を変えるのではなく、できるだけ多くの人々が対策することが大切だと考えます。

私たちにできることが分かったので、改めて、オーバーツーリズムに対してどう向き合えばよいのか疑問に思いました。向き合い方は、「地域」と「個人」で大きく変わってくるはずなので、それを調べて、考えたことをまとめたいと思います！



なるほど！ 私たちにできることがよく分かったよ！
私も名見光地に行くときは、混雑時を避けて、マナーを守るように心がけようと思うよ！
家族や友達にオーバーツーリズムを知っているか聞いてみようかな...！



ぜひぜひ！ 私もさ、よく取り組んでみようかな...！



オーバーツーリズムへの向きあい方...？
取り組みとはまた違うのかな？ まずは「地域」の向き合い方を見ていくみたいだね...。
どういうことなのかな？
「個人」の向き合い方を考えるためにも、まずは「地域」はどうしているのか知らなきゃ！

疑問 7 オーバーツーリズムとどう向き合う？

オーバーツーリズムが起きてからでは、対応が後手に回り、事態の悪化を招く可能性が高いです。

その理由として、潜在的リスクの大きさ、複雑に入り混じる多数の利害関係者の合意形成には相応の時間が必要であることなどが挙げられます。

オーバーツーリズムが起きる前に地域で取り組める対策が、主に3点考えられます。

① 地域の実情把握を踏まえた問題・対応の想定

まず、自治体および地元の観光振興組織（観光協会やDMO）がシュミレーションを行うことが有効になります。

↓ 例えば...

- ・ 当地の観光資源の特徴、観光客の属性や来訪動機、立ち寄りルート、滞在時間等の分析
- ・ 条件が類似する地域の事例を探し、想定される問題・対策の洗い出しと当地への適用作業を行う
- ・ 実行方法やコストの見積もり、協力態勢の構築や課題解決策についての具体的な検討

どの窓口で情報を集約し、どのような体制で判断し、どの範囲の関係機関に連絡し、いかなる具体的措置を誰が実際に行うのか、具体策を打ち切る目途をどこに設定するか、等の簡単なシュミレーションに早期に着手することが望まれます。

② 関係者間の意識の共有・すりあわせ

地域のDMOが中心となり、広く関係者を集め、オーバーツーリズムに対する意識共有を図ります。行政機関、観光事業者、観光資源の周辺住民、自然／文化財保護や郷土研究等を担う民間組織、学識者等に参加を呼びかけます。関係者の集うプラットフォームで、問題の深刻さやコミュニティへの影響、オーバーツーリズムに対応した場合の事業上のデメリット等について意識をすりあわせます。

③ 外部との協力関係の構築

オーバーツーリズム発生時に協力や支援が期待できる外部主体を想定し、関係構築を図ります。候補としては、観光ビジネス関係者のほか、所管の行政府・自治体、広域で観光振興に取り組むDMO、オーバーツーリズム対応の先進地域の経験者等が考えられます。また、国の情報提供を活用して活用可能な制度・しくみや相談窓口を確認、連絡することも有効です。

観光客はあくまで取り組みの対象であって、一部の住民は迷惑をこうむっているとはいえ、オーバーツーリズム現象に対して自ら対策をとる立場にありません。しかし、近年、観光に対するこうした主体の関わり方には変化が生じつつあります。今後は、各主体がオーバーツーリズムに向き合い対処することが望まれます。

< 関連主体に生じている変化とは？ >

- ・ 観光客を一方的に「もてなしを受ける側」にとどめず、責任ある行動をとる主体と見なすレスポンスブル・ツーリズムの考え方の普及
- ・ 住民については、各地で観光が地域経済を支える基幹産業となるなか、「地域経営やまちづくりに観光をどう活かすか」という目標と住民は無縁ではいられない
- ・ 観光地の魅力を日常的な暮らしや生活体験、行事に求める傾向が強まるなか、観光事業者や自治体は、住民の理解を促す取り組みに注力することが不可欠となっている

自治体、事業者、観光客、住民はそれぞれの行割、立場の変化を踏まえて相互に連携を図り、オーバーツーリズムに対処していくことが重要となっています。

＜ 持続可能な地域観光のあり方 ＞

最後のポイントは、地域の観光の将来像を描くことです。大切なことは、地域にとって理想的な観光地像を描き、その理想にいかに到達するかです。将来像を描く上で重要なことは、主体的に関係者間で合意を形成することです。住民にとって望ましい観光とは何か、そのあり方をどのように規定し、事業者や観光客の共感をいかに得るか、将来像と現実とのギャップをどう埋めるか、そのための手段やコストをどうするか、等のテーマが考えられます。すでに一部の観光地では、地域主導で望ましい観光地像とそこに至る道筋を描く取り組みが始まっています。大分県由布市は、将来の観光地像として「懐かしき未来の創造」を描き、「住んでよし、訪れてよし、原点回帰のまちづくり」を目指しています。こうした長期的視野にた、た取り組みを行うことの重要性を改めて確認することが望まれます。



最後に疑問のまとめをする。

オーバーツーリズムは、どの地域でも起こる可能性がある、ということを知っていなければならない。オーバーツーリズムが起きてしまう前に対策としておくことで、事前に防ぐもしくは最小限のダメージにすることが出来る。地域は、シュミレーションなどの対策を行い、住民は地域が行っている取り組みへの協力など、観光客はレスポンスブル・ツーリズムの考え方をもち、責任ある行動をするという向き合い方が出来るね。そして何よりも、相互に連携を図り、オーバーツーリズムそして持続可能な観光のあり方を共有していくことが大切なんだ。

その後 ～わたしとAさんは～



おわり



私たちの話はここまで！
でもこころはまだ終わらない！
最後に、今回の調べ学習を通して
考えたこと・感じたこと、伝えたい
ことを次のページにまとめたよ！
「最後に～感想・意見～」をもつて、
今回の学習のまとめとするよ！

最後に ～感想・意見～

「オーバーツーリズム」という言葉は、私もごく最近知ったものでした。でもこうして調べたことにより、オーバーツーリズムは決して自分たちに関係のないものではなく、身近な問題なのだと分かりました。調べていく中で、「アニメや映画の舞台になったことにより、聖地巡礼としてのオーバーツーリズムが起きてしまった」という内容があったことが特に印象に残っています。この情報に関しては今回触れていませんが、とても身近に感じるのではないでしょうが、私もアニメが好きで、好きなアニメを見ているとき、「ここに行ってみよう」と感じる人がたくさんあります。でもそれがオーバーツーリズムを引き起こしているのです。だからこそ、私たちにできることをするのが大切だと思います。

疑問1では定義、疑問2～4では影響、疑問5～7では取り組みと向き合い方を見ました。その中でも疑問6・7は特に大切なことだと思います。できることといっても、個人での取り組みならとても微かなものです。だから私はたくさんの人に知ってもらい、みんなで取り組んでいくべきだと考えます。混雑自体は仕方のないことだと思いますが、マナー違反や環境破壊などは、観光客が意識していないようにすれば、絶対に防げるはずで、私も観光地に行くときには、環境と住民の方々に配慮したいと思います。調べた中で知った取り組みを家族や友達に共有し、少しでも状況緩和に努めたいです。

今回調べて学んだことを、これから旅行をするときに活かして、少しでも多くの方が観光を楽しみ、オーバーツーリズムを緩和していけるように取り組んでいきたいです。だから早速、私も家族にオーバーツーリズムとその対策について話そうと思いました。

ぜひ、興味がある人は調べて対策をしてみてください！

7つの疑問の答え

< 疑問1 >

オーバーツーリズムとは、「環境容量」を超えて観光客などが自然や景観、伝統的建築物などの観光資源を過剰に利用すること。

< 疑問2 >

オーバーツーリズムによる影響は、観光資源、地域社会、住民生活、経済、伝統・文化の大きく5つに分けられる。

< 疑問3 >

日本・京都では、街なかの混雑、オーバーホテル問題、地価の高騰、マナー違反などが問題になっている。

< 疑問4 >

スペイン・バルセロナでは、京都で挙げた4つの問題に加え、住民の観光に対する感情の悪化などが問題になっている。

< 疑問5 >

分散化や民泊・簡易宿所の取り締まり、PEUAT、宿泊税の導入、啓発などの取り組みが挙げられる。

< 疑問6 >

地元のビジネスを支援する、ゴミを適切に処理する、公共の場所での騒音を避ける、などができる。

< 疑問7 >

自治体、事業者、観光客、住民はそれぞれの行割、立場の変化を踏まえて相互に連携を図り、オーバーツーリズムに対処・向き合っていくことが重要。

参考・引用文献

利用した図書館	本の題名	著者	出版社	出版年	ページ総数	請求番号
板橋区立中央図書館	オーバーツーリズム 観光に消費され ないまちのつくり方	高坂晶子	学芸出版社	2020年3月20日	271ページ	689.2
板橋区立中央図書館	ポスト・オーバーツーリズム 界隈を再生させる 観光戦略	阿部大輔(編集) 石本東生、江口久美、 岡村祐、西川亮、 沼田正人、 後藤健太郎(著)	学芸出版社	2020年12月25日	233ページ	689.2
板橋区立中央図書館	アフターコロナの観光学 COVID-19以後の 「新しい観光様式」	遠藤英樹	新曜社	2021年12月10日	232ページ	689

参考にしたWebページ

サイト名	団体名	URL	見た日付
MIRASUS	株式会社ミラサス	mirasus.jp	2024年8月23日